

令和6年6月14日

6月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県の原木生産は降雨の影響もあり若干減少。県北地域は6月から皆伐を中心に本格的な生産が始まる予定。梅雨期は間伐中心の作業となり間伐材、小径材の入荷が多い。工場の原木引取りはスギが若干鈍い。市況は全般的に保合で推移。虫害もありスギ4.0m、30cm上曲がり材が売りづらい。スギ4.0mの34cm上と40cm上の曲がり材は値下がり傾向。ヒノキは3.0m、4.0m共に保合から弱保合で推移している。

群馬県では原木集荷は順調だが、ダブつき感がある。今年は虫害が早そうである。製材工場の操業率は通常の80%程度。首都圏の製品市場からの受注は低調で地場の仕事も少ない。売れ行きは例年の7割程度で全ての製品で在庫が多く、グリーンの下地材の動きが悪い。注文が小ロット化しており売上につながらない。

2. 米材

4月の米国住宅着工数は前月比5.6%増の136万戸(年率換算)に止まった。北米製材品価格は工場の採算点近辺を浮揚しており、更なる減産や工場閉鎖が予想される。米国の港頭在庫は潤沢な状態、カナダでも原木生産は順調で平常に戻っている。夏場の乾燥によるFire Closure(森林火災防止の入山規制)は今のところ見られない。米マツIS級並の6月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(6/5)は\$388/M、5月頭に比べ4.1%の上昇となっている。

4月原木入荷は135千 m^3 と平常ペースに戻った。中・四国が120千 m^3 で4月も非常に偏っている。1~4月累計では535千 m^3 (前年同期比16.6%減)。出荷は159千 m^3 と前月比増加、1~4月累計では567千 m^3 (同7.4%減)。在庫は前月より減少し165千 m^3 、在庫率は1.22ヵ月。東京木材埠頭の5月製品入荷は17千 m^3 (前月比14.1%増)、出荷は13千 m^3 (同4.0%減)、在庫は46千 m^3 (同9.7%増)。羽柄材では安い国産材への樹種変更がかなり目立つ。最大手では欧州集成材の値上がりに歩調を合わせ、8月出荷から米マツ平角を値上げる模様。

3. 欧州材

産地サプライヤーは第2・四半期の受注は70%程度を取ったと見られ、フル生産で受注を消化中である。現在は第3・四半期交渉に向けて準備段階だが、日本側ではプレカット工場の稼働が回復せず、発注量を抑える模様である。円安進行で間柱類は日本側の抵抗が厳しく、一部ユーロ価格を下げざるを得ない状況だが、集成材はまだ強い。間柱類は遅れていたものが入荷しており不足感はない。荷動きは停滞気味で値上がりの兆しは無い。集成柱・梁も遅れていたものが入荷しており、需給バランスは取れている。ラミナのコスト高により欧州産集成材、国内集成材ともに先高感が強い。とくにRW集成梁が強い。東京港の5月製品入荷は17千 m^3 と順調だが、フィンランドのストや夏季休暇の影響で7~8月は入荷減少の可能性が大きい。出荷は13千 m^3 で減少、在庫は34千 m^3 と増えている。

4. 北洋材

産地では夏伐採は始まっていない。中国からの引き合いは依然低調だが、ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調である。アカマツ原板のオファー数量は極めて少ない。アカマツ完成品では\$600/ m^3 近い価格が標準で\$620あたりへの買いも聞こえる。シッパーは強気姿勢を崩しておらず、天井感の形成が容易ではない。国内ではロシア材の独歩高に警戒感はあるものの、先行き品不足から10万円台半ばの価格水準が定着している。アカマツは代替材への転換が意外なほど起きていない。国内北洋材工場では原板在庫が極めて薄く、引き合いは強いが全てには応えられない状況。現地挽き完成品の再仕分けが恒常化している。5月の製品入荷（東京+川崎）は12千 m^3 と若干増加したが、産地の生産意欲の低下やコンテナ出荷不調で大きくは増えない状況が続くだろう。出荷は12千 m^3 と低位安定。在庫は22千 m^3 と若干増加した。

5. 合板

合板用原木の入荷は全国的に順調で不足感は見られない。5月も合板メーカーは平均して20%前後の減産を継続している。合板メーカーの5月販売価格は4月より一段と値上げとなったが、メーカーの期待価格には達しておらず、値上げ幅も微増である。国産合板は4月に一旦値上げに動いた影響で底値から脱して一段高値で流通したが、荷動きは芳しくなく値上げ幅は小幅で推移。4月の合板生産量は21.3万 m^3 。うち針葉樹構造用合板の生産量は19.1万 m^3 、出荷量は19.0万 m^3 で在庫量は14.5万 m^3 となった。輸入合板は日本国内の先行き不透明感から現地へオーダーは乏しい状況。4月の合板輸入量は17.4万

m³で前月比 105.7%、前年同月比 115.3%。今後も 17 万 m³前後と予想される。インドネシアの各工場の生産量は日本からの注文が伸びず約 20%の減少。

6. 構造用集成材（国内産）

5月のラミナ入港量は通常の8割程度と少ない。スエズ運河の使用取り止めでラミナの欠品が懸念されるが、需要低迷で在庫量を絞る動きも見られる。現在入港の第1・四半期契約のラミナ価格は€420~460/m³程度で輸入コストは上昇傾向にある。荷動きは全国的に停滞気味であるが、集成材市況は原価、運賃の上昇により強含み。国内集成材メーカーの販売は前年同月比 80~90%、在庫は適正水準である。4月の構造用集成材の輸入量は小断面 27,570 m³（前年同月比 81.7%増）、中断面 22,560 m³（同 46.6%増）となった。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材(C材)の需要が多く、慢性的な不足感が継続。燃料材は解体物件の減少、工場残材の発生減、集荷競合の激化に伴い、建廃・残材の入荷は減少。用紙・板紙とも製紙用チップの消費は減少傾向。夏場にかけて大手製紙会社の連続定期修理が多いが、今年の一部大手では受入を停止しない方向。バイオマス発電系では旺盛な消費が継続している。チップ工場では国産材チップ原木の集荷増の基調は変わらない。製紙とバイオマスのバランスと定期修理の状況を見ながらの生産となっている。

8. 市売問屋

材木店の仕事が少ないため、国産材は値段を下げて売りづらい状況にある。市の来場者は相場の様子見が多い。スギ、ヒノキ構造材とも弱含みが続きそうだ。造作材では安い国産材が売れるが、量が出ない。アカマツ製品の品不足による値上げに付いていける材木店と付いていけない材木店に分かれてきた。プレカット工場の稼働も思ったほど良くならない。

9. 小売

首都圏では荷動きが低調で耐えるしか無い状況にある。運賃上昇や為替の円安、アカマツ製品の供給減など厳しさがしばらく続きそうだ。国産材構造材は弱含みから若干値下がりにしている。戸建て住宅需要の不振で昨今のコスト高を価格に転嫁出来ていない。外材構造材もコスト高が続くが価格に転嫁出来ていない。WW 集成管柱や RW 集成平角は今後の入荷減少や価格上昇を勘案すると値上げしたいところだが、値上げには至っていない。造作材では都営住宅に米ツガが多く使われているが、価格の上昇に伴い、スギ、ヒノキに樹種変更となる物件が増えている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年6月14日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	→
欧州材	製材品	↘	→	↘
北洋材	製材品	→	→	→

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

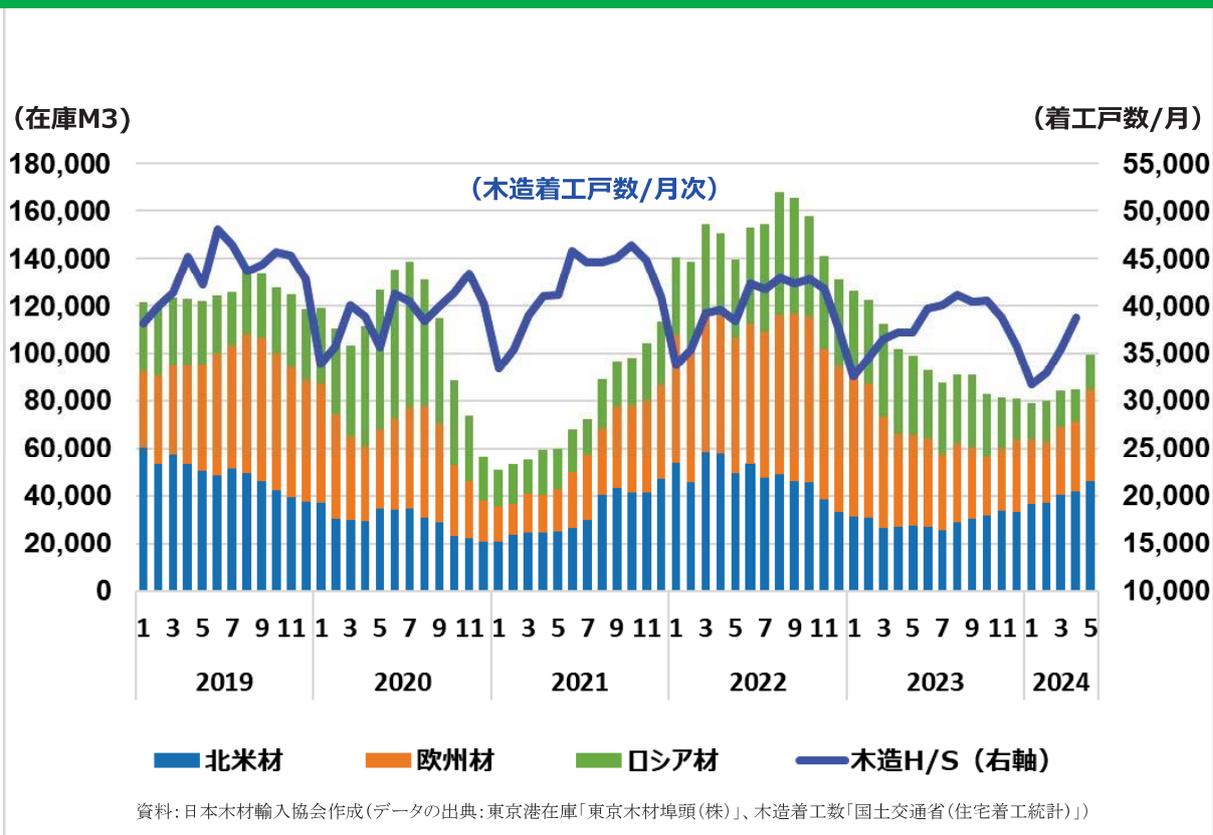
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・間屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
欧州材	製材品	東京・間屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↑
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	→
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	↗
			アカマツ(KD) 30×40上級	↗
			アカマツ(KD) 24×28 積木	↗
構造用 集成材	国内産	東京・間屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'集成柱 JAS 5プライ	↑
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↑
	欧州産		スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
			ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
合板	国産	東京・間屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

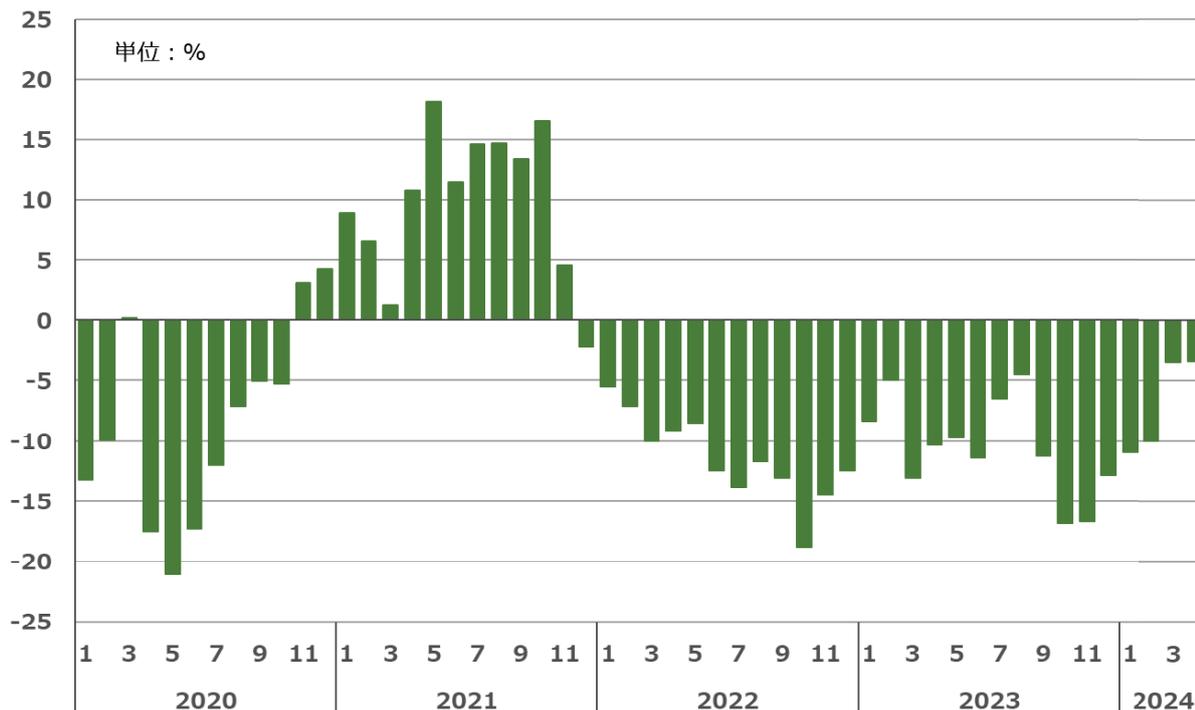
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

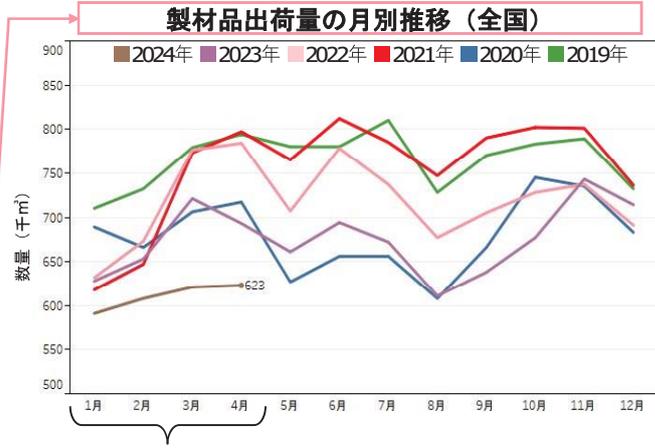
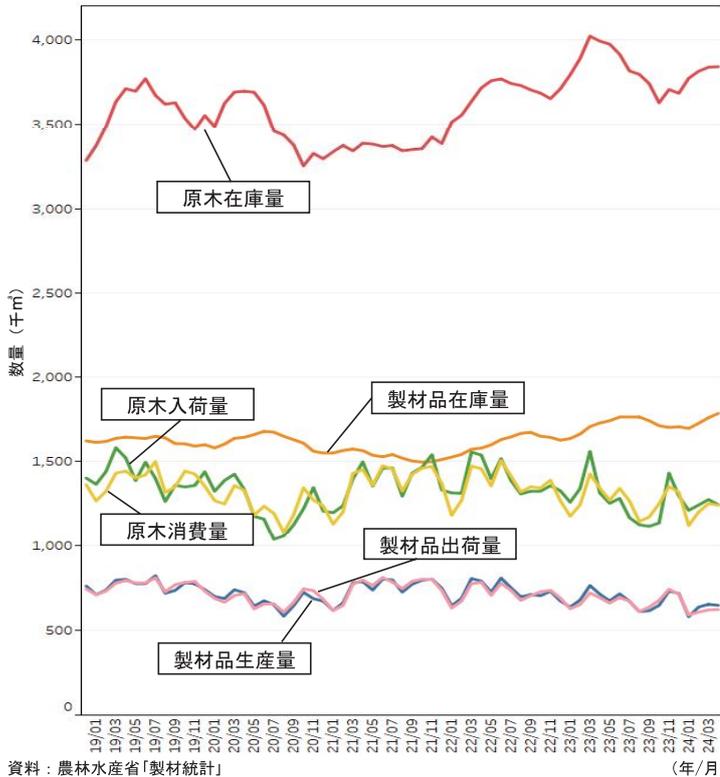
住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。



参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- 2024年1～4月の原木の入荷量は4,983千m³（2019年比84%）。
- 同様に製材品の出荷量は2,443千m³（2019年比81%）。

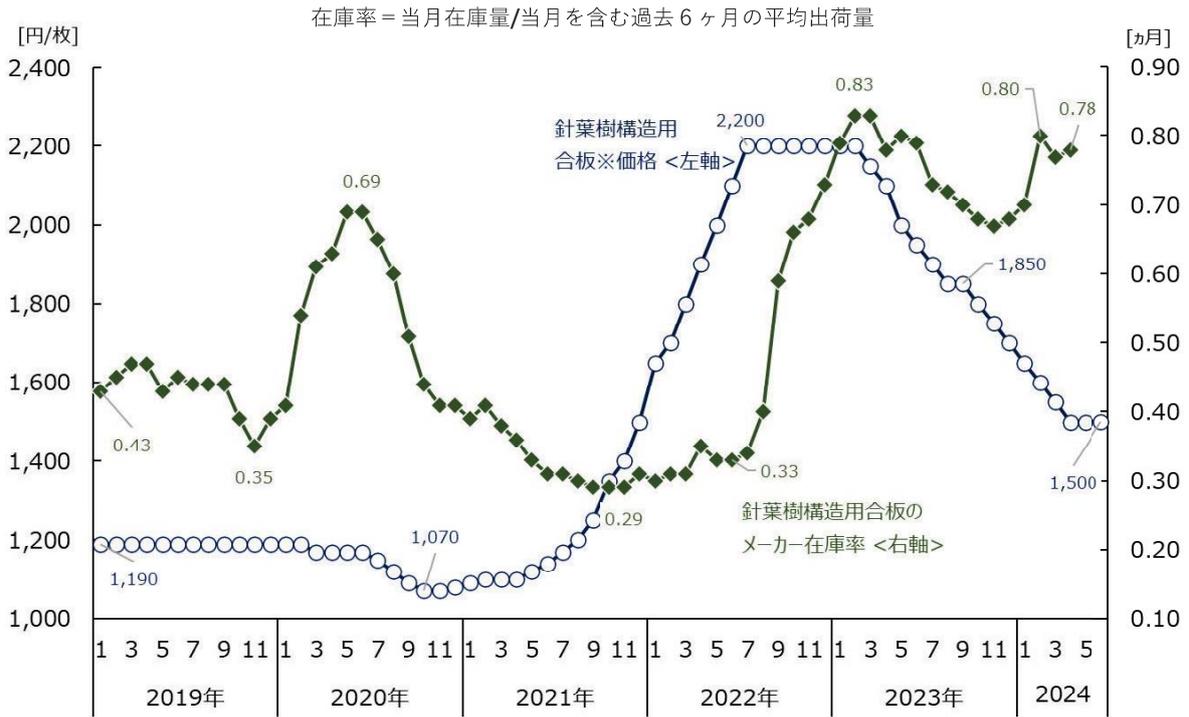


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～4月原木入荷量合計(千m ³)	5,910	5,477	5,338	5,723	5,479	4,983
2019年との比較*	-	93%	90%	97%	93%	84%
1～4月製材品出荷量合計(千m ³)	3,015	2,778	2,835	2,865	2,695	2,443
2019年との比較*	-	92%	94%	95%	89%	81%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表 4

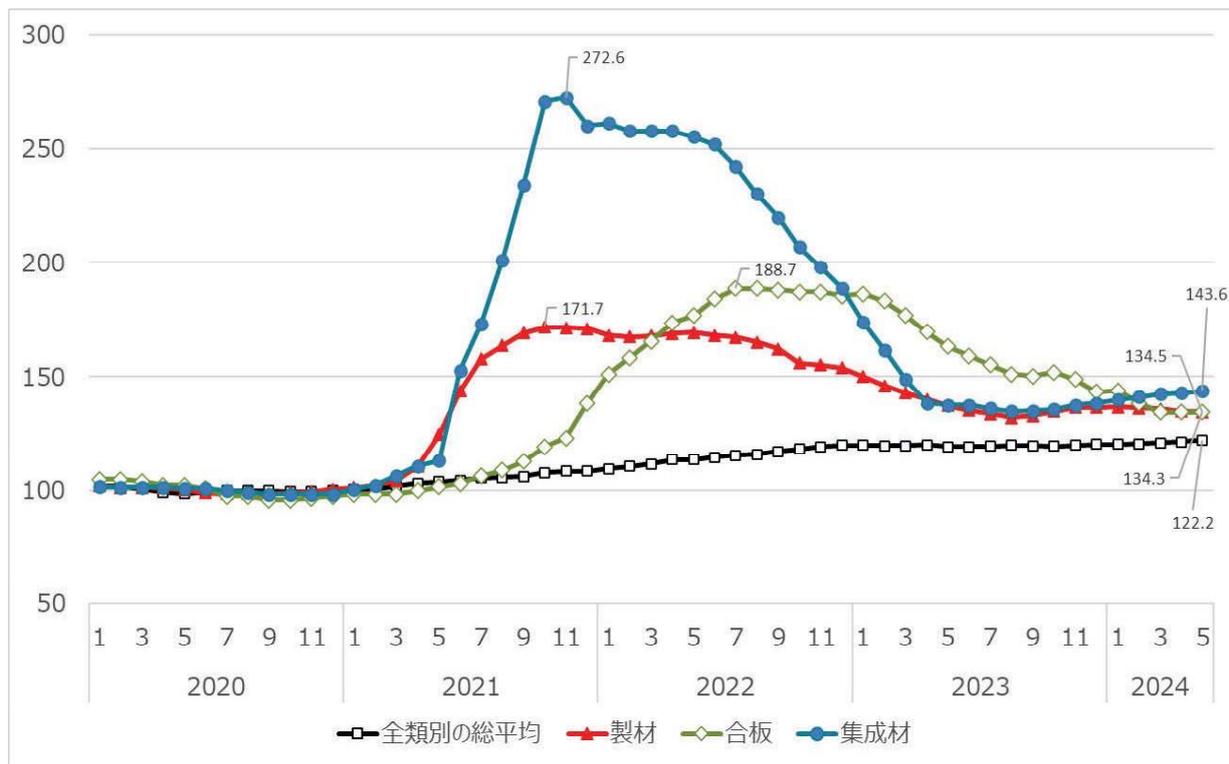
針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

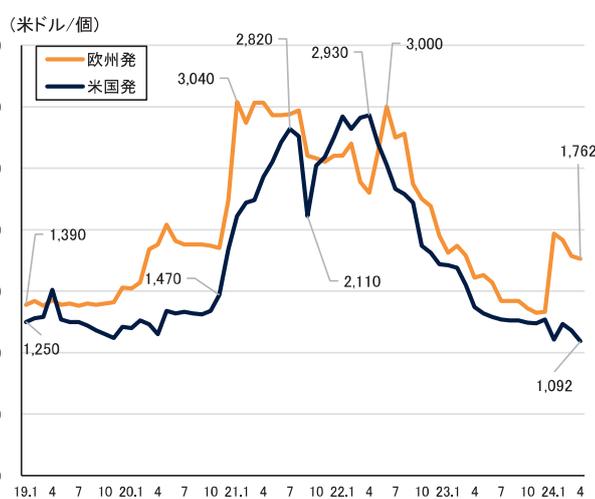
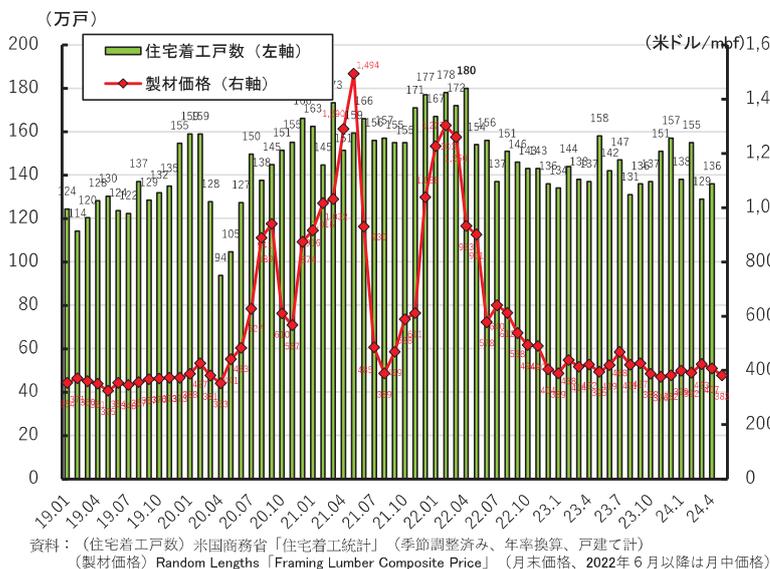


資料：日本銀行「企業物価指数」

米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について
(林野庁木材貿易対策室)

- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130～150万台で推移。2024年4月は前月比+6%増の約136万戸。
- 北米の木材価格は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年5月は382ドル/mbf（前月比▲6%減）。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したものの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が高騰。



(注) 40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。
(出典) Drewry 「Container Freight Rate Insight」
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

日本向けコンテナ運賃の推移